

## English Workshop 受講者の動機づけと授業実践報告

橋田布佐子(駒沢女子大学)

### 1. 研究の背景

効果的な第二言語習得は言語適性と学習者の動機づけの影響を受けるという結果が確認されている (Dörnyei, 2006)。Deci と Ryan による自己決定理論では、ある行為に取り組む際に行為者が自己決定的であるほど成績や健康等結果において効果的であるとしている (櫻井 2009)。大学入学時の学力不足が懸念される学生の存在が否定できない中、入学後の学力の伸長を期すために学習者の動機づけを高める積極的な指導を構築する必要がある。発表者の勤務校では学生の自律的学習を促す科目として English Workshop を設定している。English Workshop I・II を継続履修した学生を対象に、動機づけと学習方略が試験成績に及ぼす影響を検証し、今後の指導実践の改善を目的とする。

### 2. 研究方法

English Workshop I・II の履修学生を対象に、2015 年度 7 月と 1 月に動機づけと学習方略に関する 50 項目のアンケートを実施した中から、I・II を連続履修した 7 名について、各期末時点での動機づけ変化を比較した。また、4 月と 12 月に実施された英語プレースメントテストの結果を用い、試験成績への影響を確認した。

### 3. 結果

7 名全員の動機づけが若干高まったことが確認された。12 月に実施されたプレースメントテストの平均点が 4 月に比べ下降したにもかかわらず、7 名のうち、途中で受験を放棄した 1 名を除く 6 名中 5 名の学生の得点は上昇し、出題された語彙、文章、読解、リスニングの全分野において全体の平均正答率を上回った。

### 4. 考察

Dörnyei は学習者の自信獲得には教師から与えられる成功経験、激励、言語不安の軽減と、学習者の戦略に対する指導が有益だとしている (2001, 訳, 2005, p. 105)。English Workshop では振り返りによる成功経験の付与、激励と、ネイティブ教員による言語不安軽減がなされており、指導の有効性が確認された。一方、多読に消極的であった学生については、語彙、文章分野の得点率が良かったとは言い難い。成功する学習者育成のためにはより具体的な支援システム構築の必要性が認められる。

### 引用文献

- Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press. (Dörnyei, Z. 米山朝二・関昭典 (訳) (2005) 動機づけを高める英語指導戦略 35 大修館)
- Dörnyei, Z. (2006). Individual differences in second language acquisition. *AILA Review 19*, 42-68. Retrieved from <http://www.zoltandornyei.co.uk/uploads/2006-dornyei-aila.pdf>
- 櫻井茂男 (2009). 『自ら学ぶ意欲の心理学 キャリア発達の視点を加えて』有斐閣